

鉄笛



鉄笛に音韻はないが、
真の音曲を聞くことができる



隣家の恩恵

あいはら かずゆき
合原 一幸

東京大学教授

私は北九州市八幡西区で生まれ育ったが、隣家は善定寺という浄土真宗のお寺でかつ幼稚園でもあつ

た。幼な子にとつて、隣家のおじさんは初めに会う最も身近な他人の人であるが、私にとつては同時に園長先生でありかつお盆には我が家でお経をあげて下さる御院家様でもあつた。このありがたい環境が、私に大きな影響を与えてくれたように思う。

まず、「先生」という存在に自然

と親近感を持つようになった。隣家のおばさんもその幼稚園の先生だったのでなおさらだ。この先生への親近感が、現在大学の教員という職についていることのひとつの背景になつているような気がする。

それから、幼稚園で仏様に手を合わせて拜んでいたのも、いつしか仏教も私にとつて親しみ深いものとなった。ちなみに、我が家には、仏壇、神棚、さらには、お大師様とお籠神様がお祭りしてあるので、四ヶ所て手を合わせなくてはならない。これは、子供にとつては結構たいへんだ。そこで子供心に一計を案じて、万能の短いお祈りの言葉を考えた。「いいことばかりありますように」だ。そしてこの言葉は、今でも私をいろいろな機会に救つてくれ



る魔法の言葉となった。

友人の佐々木閑さん（花園大学）が「科学」十月号（岩波書店）で論じておられたが、研究の道は仏教の修行と似たところがある。研究とは、ただただ「一日一生、日々是修行」である。この意味で、個人的には仏教から学ばせていただくことはたいへん多い。

お寺かつ幼稚園の隣家に恵まれた私は特別幸運であったが、近所付き

合いというものは現代でもやはり大切なものだと思う。そして他方で、隣家の恩恵が私の人生の通奏低音となってくれたように、私の周りの学生たちに将来に向けて少しでもよい環境を与えることが今の私に課せられた責務だとも強く思うのである。

末筆ながら、読者の皆さんにも、いいことばかりありますように！